



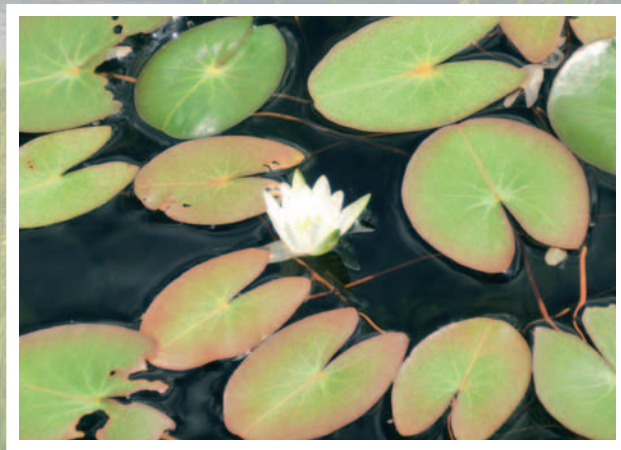
「生き抜く力」を育む 福島県の防災教育

平成26年度「生き抜く力」を育む防災教育推進事業

# 防災教育 指導資料

第2版

平成27年2月  
福島県教育委員会  
Fukushima Prefectural Board of Education.



福島県の美しい自然や恵み、

そこには過去の大きな自然災害と関連しているものが多くあります。

表紙の「磐梯山と檜原湖」は、

明治の磐梯山の噴火という大災害が、檜原湖のできるきっかけとなりました。

「尾瀬」も、火山活動で形成された特有の環境による湿原などを有しています。

尾瀬ヶ原や尾瀬沼に代表される独特の景観は、多くの人々を魅了しています。

防災に関する理解を深めながら、

その恵みでもある自然環境や、大地から生み出される農産物等について考え、

福島県の豊かさも理解できるような防災教育を進めていきましょう。



## はじめに

甚大な被害・犠牲をもたらした東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故から4年が経過しようとしています。また、国内でも平成26年は2月の豪雪、8月の広島土石流災害、9月の御嶽山の噴火等、様々な自然災害が続いた年でもありました。

福島県は、美しい自然に恵まれておりますが、その一方で、様々な災害が起こる可能性があります。この自然の二面性を踏まえた防災教育を推進する必要があります。また、原発事故に起因する放射線についての学習は、科学技術と社会との関連性を踏まえ、これからの防災教育の一つとして、今後も継続していかなければならないものです。

そのような中、福島県教育委員会では、震災以降学校の安全教育、特に、災害安全に関する教育について、児童生徒の健康にも配慮し、原子力災害に関する放射線教育を重視した「放射線等に関する指導資料」の第1～3版の作成・配付、実践協力校のモデル的な取組の推進と県全体への発信等に力を注いで参りました。昨年度から「児童・生徒が地域の自然環境、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時における危険を理解し、状況に応じて的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができたり、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができたりする態度及び能力を育成する」ことを目的として、震災を踏まえた地震や津波、また、甚大な被害をもたらす水害等も含めた本県の実情に応じた防災教育を推進してまいりました。

今年度も、防災教育に関する研修会を全学校を対象として県内7地区で実施し、実践協力校のモデル的な取組をもとにしながら、防災教育の重要性とその内容方法について協議し、理解を深めていただきました。また、親子の防災意識の高揚に役立てるため、災害時における家庭の約束事を記入する防災個人カードを今年度新たに作成し、全小中学生に配付するとともに、本指導資料を作成し、全小・中・高等学校、特別支援学校へ配付いたしますので、来年度以降の防災教育のさらなる推進を期待しております。

各学校におかれましては、この後発行されます「放射線等に関する指導資料（第4版）」や昨年度発行いたしました「防災教育指導資料第1版」と併せて本資料を教育活動の様々な場面で活用し、基礎的基本的な知識の習得とともに、「自ら考え、自ら判断し、行動できる」児童生徒の育成のために実践を推進していただきたいと思います。

結びに、本書の作成を当たり、多大なご指導をいただき、全体の監修をしていただきました滋賀大学教授藤岡達也様、作成協力者の茨城大学准教授大辻永様、磐梯山噴火記念館副館長佐藤公様、ご協力いただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

平成27年2月

福島県教育委員会教育長 杉 昭重

# 目次

## はじめに

|     |                               |    |
|-----|-------------------------------|----|
| i   | 本書の活用について                     | 1  |
| ii  | 東日本大震災と福島県 — 3. 11を風化させないために— | 3  |
| I   | 福島県の防災教育をすすめるにあたって            | 21 |
| 1   | 防災教育の背景と理念                    | 22 |
| (1) | 東日本大震災が教育界へ与えた衝撃              | 22 |
| (2) | 「生き抜く力」を育む防災教育                | 22 |
| (3) | 持続可能な社会の構築と防災教育               | 24 |
| (4) | ESD（持続発展教育）を通じた「福島から世界へ」の期待   | 25 |
| 2   | 福島県の自然環境と人間活動                 | 27 |
| (1) | 福島県で発生する災害の多様性と自然の二面性         | 27 |
| (2) | 福島県に災害をもたらす自然環境               | 28 |
| (3) | 福島県の自然の恵みと人間生活                | 38 |
| 3   | 科学・技術・社会の相互関連を取り扱う教育          | 40 |
| (1) | 科学・技術・社会の相互関連の理解              | 40 |
| (2) | 科学的リテラシーの育成                   | 41 |
| (3) | 科学・技術・社会相互関連から見た自然災害          | 42 |
| (4) | 科学・技術・社会相互関連から見た原子力災害         | 42 |
| 4   | 地域と連動した組織活動                   | 44 |
| (1) | 子どもを守るための新たな学校と地域との連携         | 44 |
| (2) | これからの避難訓練、防災活動                | 44 |
| II  | 福島県の学校防災の新たな展開                | 47 |
| 1   | 発達の段階に応じた学校防災                 | 48 |
| 2   | 防災教育の展開（年間指導計画例）              | 52 |
|     | 小学校低学年                        | 52 |
|     | 小学校中学年                        | 53 |
|     | 小学校高学年                        | 54 |
|     | 中学校1学年                        | 55 |
|     | 中学校2学年                        | 56 |
|     | 中学校3学年                        | 57 |

# 目 次

|   |   |     |
|---|---|-----|
| 3 | 防災教育の展開（指導案）                                  | 58  |
|   | 「地震が起こったら？」<br>小学校低学年 学級活動                    | 58  |
|   | 「どきどきわくわくまちたんけん」<br>小学校低学年 生活科                | 62  |
|   | 「安全なくらしとまちづくり」<br>小学校中学年 社会科                  | 64  |
|   | 「地域の防災マップをつくろう」<br>小学校中学年 総合的な学習の時間           | 66  |
|   | 「いざという時の備えは？」<br>小学校中・高学年 学級活動                | 68  |
|   | 「けがの防止と手当―学校や家庭、地域におけるけがの防止」<br>小学校高学年 体育科    | 72  |
|   | 「よりよい社会の実現に向けて」<br>中学校全学年 道徳                  | 75  |
|   | 「福島発！我が家の防災グッズをつくろう」<br>中学校全学年 技術・家庭科（家庭分野）   | 78  |
|   | 「ボランティア活動などの社会参加」<br>中学校2学年 学級活動              | 80  |
|   | 「自然の恵みと災害」<br>中学校3学年 理科                       | 82  |
| 4 | 防災教育の展開（実践例）                                  | 84  |
|   | 大切な命を守るための防災教育〔相馬市立飯豊小学校〕                     | 86  |
|   | 水害の経験を生かした「地域と連携した防災学習」〔福島市立清明小学校〕            | 94  |
|   | 地域を愛し、地域防災の担い手となる児童生徒の育成を目指す防災教育〔柳津町立西山小・中学校〕 | 102 |
|   | 防災個人カード配布のねらいと学校における活用                        | 110 |
| 5 | 防災教育と放射線教育・道徳教育との関連                           | 112 |
| Ⅲ | 災害を風化させないこれからの防災教育                            | 113 |
| 1 | 災害時における学校の対応                                  | 114 |
| 2 | 復興・復旧に向けての取組と地域防災                             | 146 |
| 3 | 福島県の自然災害                                      | 152 |
| 4 | 防災学習に役立つ情報・参考資料等                              | 159 |

## 本書の活用について

東日本大震災という未曾有の災害が日本を襲った。本書は、この大震災を風化させず、これからの学校教育の教訓とするために、今後、具体的に、学校でどのような防災教育に取り組むべきかを示したものである。

周知のとおり、東北地方太平洋沖地震によって、福島県だけでなく、宮城県、岩手県をはじめとして、国内の多くの地域で甚大な被害が生じた。そのため、国全体で、復興のための努力やこの教訓を活かすべき取り組みが見られる。教育界においては、文部科学省が、震災1年後に「防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」や学校防災のための参考資料「生きる力を育む防災教育の展開」を刊行し、全国の学校に配布した。ここで示された具体的な防災マニュアルの観点や様々な自然災害に対応した防災管理、防災教育の実践については、多くの都道府県に対しても一般性を持ち、参考となることが期待できる。福島県にとっても例外ではないので、これらの刊行物も県内で活用されることを望みたい。

しかし、福島県では、巨大地震や津波の被害に加え、自然災害が最新科学技術の施設を襲い、住民はそれまでの生活圏にいつ戻れるかわからない地域が存在するという状況に陥っている。

このような中で、福島県における独自の防災教育の在り方を探る必要がある。震災前より、安全・安心な地域づくりを目指し、持続可能な社会の構築を世界に発信するにはどうすればよいかは論議されていた。さらに、次世代の子どもたちに何を期待するかを、全県の教育関係者とともに考えて歩んでいく必要がある。

そのために、本書のねらいとしては、まず、福島県の災害安全（防災教育）を確立することである。これには、次のような内容が求められる。

- (1) 「生き抜く力」を育むための福島県の防災教育
- (2) 教育課程における防災教育の位置づけ
- (3) 防災教育・防災管理・組織活動の再認識
- (4) 学校安全全体の推進（災害安全と交通安全・生活安全との関わり）
- (5) 安全・安心な地域づくりと学校の役割
- (6) 持続可能な社会をつくる防災教育の構築

そして、具体的に、福島県の学校防災を推進していくには、各地域、学校において以下の取組を期待したい。

- (1) 安全点検、避難訓練などの防災管理・防災マニュアルの継続的な改善
- (2) 防災教育の基本理念の理解と各学校での展開
- (3) 県・市町村・学校の連動した防災研修
- (4) 3.11を風化させないための教育活動

以上のことを踏まえて、本書の活用をもとに各地域、各学校での防災教育の推進を望んでいる。

## 自校の年間指導計画の作成にあたって

### 地域性の把握

地域の実態や実情を教師自らがしっかりと把握



### 発達段階を踏まえた児童生徒の実態把握

児童生徒の過去の学習内容・経験について実態を把握し、発達段階に合わせた計画を作成



### 防災教育の内容と教科や領域との関連性の明確化

教科等の特質や特性、内容との関係・関連性をしっかり持たせ、より実効性のある学びとなるように計画を作成

## 各教科等の年間計画の作成に向けて

### ✓ 教科の特性を活かして

教科の目標やねらいは十分達成しながら、教科の学習内容の関連として、防災学習を実施するよう努める。

### ✓ 他教科や領域との関連性を考慮して (各種行事、避難訓練等とも関連させて)

他の教科での学習と連動、関連を持たせることによって、より大きな効果が期待される。避難訓練のタイミングに合わせて、教科の指導内容に盛り込むなど、学習の関連性や系統性を意識して実施することが大切である。

### ✓ 大切なこと、重要なことは、 何度も繰り返して学習する機会を確保して

様々な機会をとらえ、複数の教科や学年で繰り返し身に付けさせることも必要である。